

胎 地 9 9 3 号

平成20年10月20日

国土交通省道路局長 様

新潟県胎内市長 吉田和夫

今後の道路行政についての意見・提案について（提出）

このことについて、平成20年9月19日付国道企第37号で依頼のありました件について、別紙のとおり提出します。

今後の道路行政についての意見提案

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

様式 ①
新潟県 胎内市

胎内市の基幹作物は米(コシヒカリ)であり、国道等道路の多くは田園地帯を通過している。その国道の維持管理しベルがコスト縮減等により低下傾向にある。例えば、除草作業は道路敷全幅ではなく路肩のみであり、しかも年2回程度しか実施されていない。農家では、害虫駆除等を目的に地域が一带となって除草作業等に取り組んでいるが、道路管理者の協力が十分ではないと懸念している。

また、カーブ区間や交差点等での見通しの悪化による交通安全面での危険も増大している。
国道等道路の除草等地域に即したきめ細やかな維持管理をお願いしたい。

国道7号は、中条黒川バイパスの4車線化の全体計画14.2kmのうち2.2kmは4車線化が完了しているが、残り12kmはまだ2車線である。日東道の荒川I.C.(仮称)の開通及び荒川道路・乙バイパス供用開始が迫っていることから、4車線工事を早期に完了し道路のネットワーク化を図ってもらいたい。

また国道を横断している地下道は勾配が急で、自転車で通行するのが、大変である。これを解消し高齢者や子供たちが、安心して通れる通路にしてもらいたい。

胎内市の主要道路は、国道であるが、歩道の未整備区間が多く、子供たちが毎日通う場所でも、歩道がなく大変危険な思いをして通学している。通学路以外にも海岸線の国道113号線は、日東道の関連で交通量が非常に多く、歩行者等が危険にさらされている現状である。これらのことから、国道の歩道の整備を早期に図ってもらいたい。また国道には線形不良や変形交差点などが多く危険であるため、改良工事を実施していただきたい。

今後の道路行政についての意見・提案
②-1 地域の現状と抱える問題

様式 ②
新潟県 胎内市

○ 現状 市の中心部と中山間地を結ぶ道路が1本だけで、この道路が被災すると中山間地の避難活動や災害復旧に支障がでる。 また、市民の道路整備に対する要望が大変多い、このことは道路整備が立ち遅れているためのものである。	○ 課題 市の中心部と中山間地を結ぶ道路を複数整備する必要がある。 道路整備を行うために、十分な財源を確保する必要がある。
--	--

今後の道路行政についての意見・提案

②-2 地域の目指すべき将来像

様式 ③

新潟県 胎内市

市民が安心して働き、学び、暮らしていきける魅力ある街づくりを実現するため、「自然が活きる、人が輝く、交流のまち」を基本理念に、豊かな自然と産業基盤を活かし、歴史と伝統を培い、魅力・活力にあふれた地域の実現を目指す。

市を南北に縦貫する日沿道、国道7号、113、290号を相互に連絡する東西軸方向の道路整備や中山間地へのアクセス強化、街なかの道路の安全性・快適性の向上等により将来像の実施を目指す。

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価)

○時点事項	○代表事例	○期待する効果や評価	○その他
・地域活力の向上	高速道路のネットワーク化及び追加I.C.	工場誘致や物流の効率化。観光客の増加	
・総合的な交通安全対策及び危機管理の強化	インターアクセス道路の整備	災害に強い町づくり	
・少子・高齢社会に対応した子育て環境、バリアフリー社会の形成	道路網の整備や歩道等のバリアフリー化などを行い高齢者にやさしく快適な生活と自然豊かな町を創造する	便利で心豊かにくらし、元気な子供たちを高齢者とともに育てる。	